

特別の教科 道徳

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

特別の教科 道徳では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目指す。※（ ）内は中学校

- 主体的：「問題意識をもつ」「自分との関わりで捉えて考える」「自らを振り返る」
- 対話的：「多面的・多角的に考える」
- 深い学び：「自己の（人間としての）生き方について考えを深める」

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
<p>■自分自身との関わりの中で考えられるような導入の工夫</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等でクラスの実態と教材を関連付ける ・教材のエピソードを学校行事等と関連付ける ・運動会等の学校行事の時期に合わせて関連の深い教材を学ぶ 	<p>■多面的・多角的な見方へと発展させるような問い返し</p> <p>◇手立ての例</p> <p>子どもの発表に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうして、(人物の行動)ができたのだろうね」と視点を提示する ・「○○についてあなたは、どう思う？」と違う立場や考えを理解させるように促す 	<p>■生き方について考えを深めた事を認め励ます</p> <p>◇手立ての例</p> <p>認め励ましたい様相</p> <ul style="list-style-type: none"> <価値理解>教材から内容項目の様子を考えている <自己理解>自分の行動を振り返って考えている <人間理解>行動に移すことの難しさに気付き、どんなことができるか考えている

※評価は、下記のポイントでよさを認め、子どもの成長につなげましょう。

- ・一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。



ICTの活用について

特別の教科 道徳では、答えが一つでない道徳的な課題を一人一人の子どもたちが自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」への転換により、道徳性を養うことが求められる。指導に当たっては、道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるようにするための手段としてICTを活用することが肝要である。

■特別の教科 道徳の特質に応じたICTの活用例

【例①】多面的・多角的に考えるためのICTの活用

道徳的価値に対し、いずれの立場を重視するかについて自分の考えを端末に入力（例：心情円盤など）する。それらを端末で共有することで、他者の考えとの異同が可視化される。そうすることで、相互の考えについて根拠に基づき、議論するきっかけとなる。また、共有機能は、振り返りで考えを深める際にも効果が高い。

【例②】自分自身との関わりの中で考えを深めるICTの活用

自分自身にとっての道徳的価値の大切さを整理した後、端末に考えを表記する。人前で話すことが苦手の児童生徒も端末を活用すると自分の考えを示すことが可能となる。そうすることで、他者からの意見ももらいやすくなり、自分自身との関わりの中でより考えを深めることができる。また、これら学びの履歴を保存しておくことで、過去の考えを振り返り自己の成長を実感させる際に有効活用することができる。